

豊かな自然の恵みと自然災害の脅威 協働の取り組み



治山ダム施工後(新稲)

急峻な溪谷美と箕面大滝を含めた**明治の森箕面国定公園**、四季折々に美しい**山なみ景観**、大都市近郊にもかかわらず、多様な**生き物が生息**する山間・山麓部の豊かな自然を求めて、箕面の森には、年間を通じて、海外を含めて、多くの観光客が来訪するなど、**地域の活性化**のもとにもなっています。

箕面の森は、**レクリエーション**や**やすらぎの場**となっているほか、水をたくわえて**洪水を防ぐ**、二酸化炭素を吸収して**空気をきれい**にするなど、さまざまな**公益的な機能**があり、山すそ部に住む私たちは、**自然の恵み**を受けて生活しています。

一方で、急峻な地形が多く、複数の断層が走るなど、**地滑りや斜面の崩壊**が起こりやすい地形や地質により、これまでに、たびたび**水害や自然災害**に苦しめられてきました。近年では、2017・18年の台風の影響で、**滝道が1年間通行止め**になるなど、大きな被害を受けたことは記憶に新しいところです。

台風被害を受けた滝道の石子詰や大滝上駐車場斜面は、大阪府や国により復旧工事が行われ、2024年度には、大阪府の森林環境税を財源として、箕面では如意谷と新稲の二か所において、土石流発生防止のための**治山ダムなどの森林整備事業**が行われました。このような行政による施策だけでなく、**市民を含めた「協働」の取り組み**により、災害に強い森づくりを進めていく必要があります。こもれびの森(箕面市有地)では、大阪府が倒木を撤去し、シカ除け用の金柵を設置した後に、市民が中心となって、花の咲く木の**植樹や下草刈り**、**防鹿ネットの設置**や見回りなどの活動を行っています。活動に必要な多くの資材などの財源は**市民からの寄付**で賄われています。

かつては普通に見られた両生類の多くが絶滅危惧種になっています。

明治の森箕面国定公園などでは自然環境が保全されており、特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオのほか、溪流で美しい声で鳴く**カジカガエル**、主に木の上で生活する**モリアオガエル**などの両生類が生息しています。

山すそ部では、耕作放棄地の拡大や里山の水辺環境の変化などにより、かつて山沿いの水田で普通に見られた**トノサマガエル**や**アカハライモリ**が急激に個体数を減らしています。環境悪化のほか、在来種を捕食し、生態系に悪影響を及ぼす特定外来生物の影響も危惧されており、国定公園内では**ウシガエル**の駆除活動が行われています。



オオサンショウウオ
絶滅危惧Ⅱ類(VU)



カジカガエル



ニホンヒキガエル
絶滅危惧Ⅱ類(VU)



シュレーゲルアオガエル
準絶滅危惧(NT)



モリアオガエル



トノサマガエル
準絶滅危惧(NT)



アカハライモリ
準絶滅危惧(NT)



ウシガエル
※特定外来生物

大阪府森林環境税を活用した治山ダム等の森林整備事業が行われました。

《如意谷地区整備事業》



《施工前》 人工林

2024年度大阪府森林環境税を活用した、土石流の発生や流木防止のための治山ダム整備等事業が、箕面山麓部の如意谷および新稲地区で行われました。

豪雨等の場合、水が集まりやすい特定の地形(凹地形)において災害が多発していることから、①治山ダム工(流速を落とし、土石流などの過度な土砂流失を抑制)、②流木対策工(溪流沿いの危険木の撤去)、③森林整備(本数調整伐や林内筋工)の森林整備事業が行われました。

※写真は大阪府北部農と緑の総合事務所

《新稲地区整備事業》



《施工前》 雑木林



《流木対策工》危険木除去



《本数調整伐》



《流木対策工》施行前



《流木対策工》危険木除去



《治山ダム》施工後



《林内筋工》



《本数調整伐》



《治山ダム》施工後

○森林が持つ防災機能を高めるため市民ができる森林整備の取り組み。

市民ができる災害に強い森づくりとして、荒廃地の植樹活動、防鹿ネットの設置や民有林の倒木処理や間伐などの整備活動を継続して行っています。2024年度は、山林所有者からの62件(前年より1件増)の整備派遣要請を受けて、5つの市民団体(「みのお里ぷら」「箕面の森のきこり隊」「みのおフォレストーズ」「箕面マウンテンバイク友の会」「地元の水利組合」)から延べ549人のボランティアが参加し、おもに冬場に整備活動を行いました。



箕面市議会議員研修会で、山麓委員会と山パト隊が講演しました。

5月9日、箕面市役所で箕面市議会議員研修会があり、みのお山麓保全委員会 事務局長成瀬英夫さんと箕面の山パトロール隊 事務局長村上竜太さんが、講師として、箕面市議のみなさんに、それぞれの団体の活動内容の紹介と箕面の山を取り巻く課題について講演しました。

はじめに箕面の山パトロール隊、村上事務局長が、日ごろのパト隊の活動内容やこれまでの活動の成果などについて講演。投棄ゴミの量は、以前に比べ全体としては減少しているものの、まだまだ、なくならない現状を訴えました。

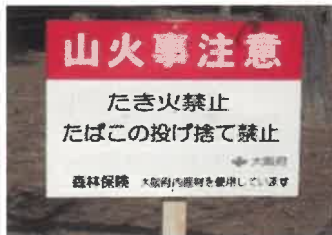
みのお山麓保全委員会の成瀬事務局長は、1994年に実施された市民アンケートで98%の市民が、「山麓の緑を守っていくべきだ」と答えたところから、山麓保全活動がスタートした歴史を紹介。活動の推進には、山林所有者と市民と行政の三者による「協働」の取り組みが大切だと述べ、また、近年の箕面の山や森を取り巻くおもな課題・問題として、放置林の拡大や、増えすぎたシカの食害の問題、温暖化などによる土砂災害リスクの増加に対する災害に強い森づくりなどを、市議会議員のみなさんに説明しました。



※なお、当日の資料をみのお山麓保全委員会ホームページ(検索:山なみネット)に公開しています。

山の中などでの「たき火」「たばこの投げ捨て」は厳禁！

みのお山麓保全委員会に寄せられた、箕面の山の中や谷川の川原での「たき火跡」の通報は、今年1月以降だけでも4件に上ります。山の中などでの「たき火」や「たばこの投げ捨て」は、**絶対にしないでください！**山火事の防止、箕面の緑を守るため、みなさんのご協力をお願いします。山火事を起した者は、森林法などの法律により処分される可能性があります。



(大滝上駐車場前川原)

(憩いの丘)

(オケ原林道)

(わくわく展望台)

消防庁によると、全国で年間約1200~1300件の山火事が発生しています。その出火原因は大半が人為的なもので、とくに「たき火」が32.6%(令和元~5年平均)と最も多くなっています。箕面市内でも4月に箕面森町で山林火災が発生しました。幸い、比較的被害が少ないうちに消防により消止められましたが、場合によっては大災害に拡大する可能性もありました。夏は水蒸気が多く、火災の発生は年間でもっとも少ない季節ですが、山裾に住宅地が連なる箕面の街は、山火事に対しては年間を通して注意が必要です。

特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」が箕面市内で確認されました。

クビアカツヤカミキリは、サクラ、モモ、ウメなど、おもにバラ科の樹木を食い荒らし、枯死させる外来生物で、2012年に愛知県で発見された以降、全国で被害が拡大しています。先ごろ、幼虫が排出するフラス(木くず・糞の混合物)が見つかり、箕面市でも発生が確認されました。

クビアカツヤカミキリの防除対策には、早期発見、早期防除が非常に重要。成虫(生死を問わず)や幼虫の侵入した際に発生するフラスを見つけた場合は、箕面市環境動物室(072-724-7039)にご連絡をお願いします。

また、成虫を見つけた場合は、被害拡大を抑えるため、できるだけハンマーなどで叩いたり、踏み潰すなどして駆除してください。



クビアカツヤカミキリの成虫



フラス(木くず・糞の混合物)

山林整備サポート/ボランティア養成講座を10月11日(土)に開催します。



- 日時：2025年10月11日(土) 10:00~15:00(予)
※少雨決行
- 実習：箕面栗生外院 あたごの森
- 定員：先着 10名
- 内容：基本的な技術や安全知識を学ぶ講義
民有林で、倒木処理や間伐を体験
(※作業は手鋸のみで、チェーンソーは使いません)
- 参加費： 無料 ※事前申し込みが必要です



《山林整備サポートとは》

山林所有者が高齢だったり、遠隔地に住んでいるなどの理由で山林の手入れができない場合に、山林所有者からの要請を受けて、倒木処理や間伐など山の手入れを行うボランティアを、みのお山麓保全委員会を通じて派遣する仕組みです。養成講座の修了生の多くの方が、ボランティアとして民有林の整備に参加しています。

山とみどりのフェスティバル 体験フェア 11月3日(祝)に開催します。



- 日時：2025年11月3日(祝) 10:30~15:30(予)
- 場所：箕面公園瀧安寺前広場など ※雨天中止
身近にある箕面の自然を、多くの市民のみなさんに親んでもらうとともに、箕面の山や森を舞台に森を守り、育て、活かす活動する市民団体を紹介します。
今年も11月3日(祝・文化の日)に、山とみどりのフェスティバル/体験フェアを開催します。ぜひ、ご家族でお越しいただき、お楽しみください！



みのお山麓保全活動助成 2025年度後期 8月1日から募集が始まります。

みのお山麓保全活動助成金は、四季折々に美しい箕面のみどり豊かな山麓を守り、育て、活かすために、山林所有者や市民団体を応援する(助成)する仕組みです。毎年、前期(2月)、後期(8月)にその年度の活動助成を募集しています。NPO法人みのお山麓保全委員会は、中間支援組織として、山林所有者や市民の活動支援や助成金を活用した活動の相談や助成申請の受付などの業務を行っています。

○申請受付期間: **8月1日(金)～31日(日)** ○助成金額: 1件あたり25万円以内

○助成の流れ: 受付⇒ 審査会で助成先決定(9月下旬頃)⇒ 助成(11月上旬頃)

- 山林所有者への助成 箕面市環境保全条例により「自然緑地」として指定された山林において、その所有者が里山の管理を行う場合の助成金額は、土地登記簿面積1㎡あたり25円で計算します。(上限25万円)
※助成申請のためには、自然緑地等指定同意書を提出していただく必要があります。

《みのお山麓保全活動 助成の仕組み》



※ 山麓保全活動の助成は箕面市の2025年度の補助金予算の範囲内で行います。このため、全体の応募件数によっては、助成の要件を満たす団体・活動であっても、場合によっては助成の対象とならないことがあります。また、助成金の額は助成の対象となる活動にかかる経費であっても、必ずしも申請どおりの額を助成できるものではないことをご承知ください。

2024年度(2月期、8月期計) みのお山麓保全活動助成の実績

- 山林所有者(箕面市環境保全条例による自然緑地指定同意書提出者)による活動を助成
件数: 90件(前年比+1件)、助成金額: 9,248,800円(前年比+48,500円)
☆山林整備ボランティア派遣要請件数: 62件(前年比+1件) ☆自然緑地同意新規件数0件(前年比△2件)
- 市民団体等による活動を助成
件数18件(前年比+2件、助成金額: 1,971,000円(+113,400円))

みのお山麓保全委員会の前事務局長 高島文明さんが林野庁長官から感謝状。

5月15日に開催された明治の森自然休養林管理協議会の例会で、みのお山麓保全委員会前事務局長の高島文明さんに対して、国有林野の管理経営の推進や森林・林業の発展に多大な貢献をされたとして、林野庁長官から感謝状が贈られました。

同協議会は、箕面の山間・山麓の環境保全や課題解決のため、国や大阪府、箕面市などの行政と研究機関及び市民団体で構成、定期的に情報共有や意見交換会を行っています。また、市民団体が中心となって、森の道標の設置、ベンチの整備やシカの食害対策など森林の保全活動を行い、高島さんは協議会事務局の中心として精力的に役割を果たしてこられました。



5月25日(日)に NPO法人みのお山麓保全委員会の第24回定期総会を開催。



■NPO山麓保全委員会は、5月25日に第24回定期総会を開き、2024年度事業報告・決算報告、2025年度事業計画・活動予算及び下記の役員選任案が承認されました。
理事: 角山年昭、村上竜太、中川弘佳、安田勇人、中瀬重幸、鹿島幸子、永浜久美恵、岩崎昭司、住川昌司(以上、再任)、監事: 山内一浩(再任)。総会終了後の理事会で代表および副代表が互選されました。代表理事: 角山年昭(再任)、副代表理事: 村上竜太、中川弘佳、安田勇人(以上再任)。

NPO法人 みのお山麓保全委員会

〒562-0001 箕面市箕面1-2-6 箕面駅前ビル301号室

電話&FAX: 072-724-3615 携帯電話: 090-8926-3615

メール: yama-nami@yama-nami.net

ホームページ: <https://yama-nami.net>(検索: 山なみネット)

* 箕面の山麓保全情報のポータルサイト「みのお山なみネット」

